

2016年11月3号

鳥取県に震度6弱発生・地震大国日本での原発再稼働に反対！

11月9日 岐阜市議会文教委員会 伊藤設計・戸田建設の出席 漏水事情聴取



使い方悪いから 漏水する？！

いとうとよお い は ら よ し た か
伊藤豊雄建築設計事務所の庵原善隆設計担当者の言い分

は、標題のようでした。メディアコスモスの設計は温度と湿度が指定されていて、それを守らないで空調システムを運転した管理者（市職員）が「漏水の状態を現出させた」とも取れる発言内容には驚きました。

1年半の漏水の原因も確定できず、仮設の乾燥機2機設置して「大丈夫です」との報告書を提出直後に、またも漏水。「直りました」との報告書が文教委員会の委員手元に届く前に「新たに漏水」が起きています。本委員会質疑途中で「設定を守れば、絶対に漏水が止まる」かのような発言があり、「絶対に！」と出席者から声が上がると「絶対に」はすぐに撤回。委員からは「利用者が暑いといわれれば、管理者としては利用者優先で、温度を下げるのは当たり前ではないのですか？」「使い方まで、細かく注文されなければ利用出来ない建築物なのか？」旨の質問が出ていました。

雨漏り こぼやし **と言うなら、場所を示せ！**・・・古林 （伊藤設計チーフ）

「尽くして調査しました。漏水であり、雨漏りではありません。雨漏りと言われるなら、場所を示してほしい。」と伊藤豊雄設計の古林豊彦（設計チーフ）が発言されたのにも驚きました。1年点検で23項目570箇所の不良箇所を指摘されている業者の言い方としては「極めて聞き辛い」（松原のりかず）と指摘しました。市役所議場も大会議室も副議長室も雨漏りがあり、雨漏り箇所の特定がされて改修されている記憶は無い。全面防水シートを張って、ようやく止まっているのでは。調査は業者の責任では？

人間の体から出る水分で漏水の事例は？ の質問に

各方面から意見が出ています「漏水原因を人間の体から出る水分」とすると、大勢の市民に集まって頂くと「常に漏水の心配」をしなくてはならないのか？ 報告書に原因として「人間から出る水分」が示されているが、他の建築物で同種の事例は在るか？の質問に戸田建設は「マンションなどの密閉された小さな空間ではありますが、メディアのような建築物ではありません」と答弁しています。まことしやか？に記載された「人間原因説」は伊藤設計の固執のようでは。また、伊藤設計が発言各所で「省エネの為に」を話題にしたがったが、「本委員会の課題は、省エネ以前の建築物としての漏水の改善である」と文教委員長から注意される場面もありました。

連絡先 市会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

岐阜市の事例も報告された厚生労働省主催

過労死等防止シンポジウム

11月12日(土)13:30からJR岐阜のハートフルGで過労死等防止対策推進シンポジウムが開催されました。昨年は実行委員会方式でのカンパ開催でしたが、本年からは厚生労働省の主催のシンポジウムとすることが出来ました。

基調講演は、過労死弁護団全国連絡会議の代表幹事である松丸正弁護士から「過労死等の救済の現状と防止のための今後の課題 — なぜ、過労死等は生じるのか —」を受けました。

その後、「県内過労死認定の報告」として、「岐阜県職員の過労自死」「岐阜市民病院の過労自死」「イビデンの過労自死」の事件の報告が担当された3弁護士からされました。県の事例、市の事例を通じて、職場の労働組合の初期対応で裁判が大きく変わるとの報告と、近年の労組の弱体化への危惧が語られました。

事例報告後は、伊藤哲元公園室長の夫人である伊藤左紀子さんから「岐阜市職員過労自死遺族の声」と題する報告を受けました。2007年本庁舎8階から飛び降り自死、当時54歳。08年公務災害認定請求、11年公務災害認定されず、13年再審請求。13年8月岐阜地裁へ「公務外災害認定処分の取り消し」を求め提訴。裁判約20回。16年6月元上司、同僚の証人尋問。7月原告尋問、9月結審。の経過報告と負荷となった職場環境が切々と語られました。裁判の判決は年内12月22日です。



松原のりかず
☎058-253-2500